

はなわ 議会だより

2013
No.123

発行/福島県塙町議会
平成25年8月16日



「おいしい給食ありがとう」
塙中学校3年生

平成25年
6月定例会ほか

4月から7月の議会活動	P 2
国民健康保険税改正	P 4
町の考えを問う (5議員が一般質問)	P 6
追跡レポート	P 11

定例会・臨時会以外の 4月から7月の主な活動を紹介します。

議会はどんな活動をしているのか、新しい施設ができる調査をし、新しい町の活動が始まる前に内容を調べ、議会や町の仕組みをより良くするための先進地視察など、日々活動し、定例会などで報告します。

議会活動は議場での会議以外に、担当する委員が行う所管事務調査や議員の連絡調整を行う全員協議会、議員研修などがあります。



水の安全を確認する

経済厚生常任委員会

7月2日、平成23年度から5年計画で進めている水道整備について所管事務を調査した。大字塙を中心とする地域の塙第一水源は、このほど浄化施設が完成した。水質環境の悪化が心配されるなか、施設を整備充実し、塩素消毒では処理できない病原性原虫にも対応出来るようになった。

今年度は、羽黒山中腹に配水タンクを設置し、一定

より安心して飲める水を確保

の水量を確保できるようにする計画である。

橋梁補修工事計画通りに進む



米山橋の現状を視察

橋梁の長寿命化修繕計画に基づいて、橋梁補修工事が行われているが、米山橋の橋面防水・伸縮装置取り替え工事を調査した。昨年度の下植田橋に引き続き行われるもので計画通りに進んでいた。主桁補強（橋を支える柱）、歩道橋高欄（手すり）取り替えが別工事で予定されている。

総務文教常任委員会

時代の変化に対応できる道の駅はなわへ

7月16日、道の駅はなわの所管事務調査を行った。道の駅はなわは、今年度中に法人化される予定で、法人化の目的や協議の経過について調査した。現在の道の駅はなわは、農産物・物産・軽食・レストランの運営組織が別になっており、それが原因で苦情処理・職員教育・商品開発などが思うように進まず、問題が多かった。それを一般財団法人として一本化し、時代の変化に対応できる組織づくりを目指す。



にぎわう道の駅はなわ

7月2日、給食センターの建設計画や給食献立の考え方を調査した。現在の給食センターは昭和47年に建築され、老朽化が進んでいるため建て替えが計画されている。今年度は施設の実設計と用地購入を行い、来年度着工、平成27年度に稼働する予定である。次に、運営について調査したが、献立は学校給食法・学校給食実施基準に基づいて作成し、特に家庭では取りにくい、必要な栄養素の摂取ができるように工夫しているとのこと、調理員が生徒から感想を聞き、給食作

学校給食センター建設計画や献立づくりを調査

7月2日、給食センターの建設計画や給食献立の考え方を調査した。現在の給食センターは昭和47年に建築され、老朽化が進んでいるため建て替えが計画されている。今年度は施設の実設計と用地購入を行い、来年度着工、平成27年度に稼働する予定である。次に、運営について調査したが、献立は学校給食法・学校給食実施基準に基づいて作成し、特に家庭では取りにくい、必要な栄養素の摂取ができるように工夫しているとのこと、調理員が生徒から感想を聞き、給食作

りに生かしているなどの説明があった。また、アレルギー対策については、揚げ油を替える・除去食や似た食材を使つての献立作り・配食・配膳の仕方など細かい配慮していることの説明を受けた。栄養教諭の説明の後、中学生と共に実際に給食を試食し、味や量について確認した。



和やかな給食の時間



今日の給食どうだった

議員研修

議員研修では5月23日、泉崎村の議会中継を視察した。

泉崎村議会では、議会の傍聴者が少なく、情報公開して村の事を村民に考えてもらうことから中継が始まった。

塙町では、会議録の検索システム導入など行ったが、開かれた議会を目指すため議会中継も検討していく。



中継カメラを操作する機器

合同常任委員会

塙町では、年々、未収金が増えてきていることから、総務文教・経済厚生の両常任委員会は、2月20日の調査に続き、5月23日、収納率が90%台後半と高い天栄村から収納対策を学ぶため、調査を行った。

天栄村では、収納担当職員を増員し、従来踏襲型の手法を改め、信頼感と収納強化を目標に取り組み成果を上げている。議会として、収納率アップを目指し、今後も継続し、取り組んでいく。



収納対策を学ぶ

全員協議会

4月から7月までに7回、全員協議会が開かれ、議案や特別委員会、議会改革について協議した。

全員協議会には、議会の行事や運営活動の協議、本会議の審議に伴う協議（議事を円滑に進めるため）や、町長による事前説明などがある。

平成25年6月定例会は、6月11日から13日までの会期で開催されました。国民健康保険税条例改正など町提出議案を審議し、全会一致で原案のとおり可決・承認しました。また、3件の報告議案が報告されました。一般質問では、5名の議員が登壇し、木質バイオマス発電事業などについて質問しました。

6月定例会

国保税標準世帯で 2万円の減額

国民健康保険税 条例の改正

国保税条例は今年度の国保税を決定するため、算定の基礎となる前年度の所得などが確定するこの時期に毎年改正されます。税額は、前年度の所得に応じた所得割、固定資産に応じた資産割、被保

険者ごとにかかる均等割、世帯ごとにかかる平等割の合計金額です。国保税の決定にあたっては、まず、その年の医療費がどのくらいになるか推計し、国保税が総額いくら必要かを算定します。その後、被保険者の所得額などによって課税

標準モデル世帯の国保税

夫45歳 妻42歳 子18歳の3人家族
収入等（給与収入）300万円
所得192万円
固定資産税8万円の場合

	24年度	25年度	比較増減
所得割	9.97%	8.51%	△1.46%
資産割	48.46%	50.15%	1.69%
均等割額	35,500円	35,700円	200円
平等割額	26,900円	26,900円	増減なし

この標準モデル世帯の場合、年税額は、30万900円となり、約2万円の減額となります。

補正予算

一般会計のほか3特別会計の補正予算が決定した。

一般会計では、道の駅法人化に伴う町出資金100万円が計上された。補正額は表のとおり

(単位：千円)

会計名	歳入歳出金額	
	補正額	補正後の額
一般会計	13,000	5,066,237
国民健康保険特別会計	△26,832	1,135,635
農業集落排水処理事業特別会計	33,430	183,667
公共下水道事業特別会計	2,606	179,543
合計	22,204	6,565,082



法人化される道の駅はなわ

鈴木（安）道の駅の法人化で町との関係はどうなるか。
答弁 法人が主体的に運営し、町は指導的立場で携わる。



林道の開通式（東河内地内）

大綱 財政調整基金が10億円あるが今後の運用は。
答弁 公約実現の財源としたいが、10億円を下回らないようにしたい。
藤田（高） 予備費増額の理由は。
答弁 道路の開通式に使用した補充と予算調整である。

質疑

鈴木（茂）道の駅はなわの出資金100万円の根拠は。
答弁 農産物組合が30

藤田（二）光ファイバー関係工事費が倍増しているが。
答弁 IP告知電話関連工事の見込み額を大幅に上回った。

※財政調整基金とは円滑に行政の計画等を行い、健全に財政運営するための基金

契約の締結

高城地区体育館耐震補強・大規模改修工事
（有）常豊工務店と5460万円で購入。
旧高城小学校体育館の耐震補強、トイレ改修工事。

人事案件

教育委員の任命
瀬谷 八洲氏（東河内）
任命に同意



請願

年金2.5%の削減中止を求める意見書提出に関する請願
請願者 石川町字長久保47-25
全日本年金者組合福島県東石支部
支部長 石沢 泰伸
紹介議員 小貫 初枝
総務文教常任委員会に付託。審査結果は不採択となったが、少数意見報告書が提出され、本会議で起立採決の結果、反対10、賛成3で不採択となった。

報告

平成24年度繰越明許費翌年度に繰り越す事業は6事業、総額1億6千509万2千円。

平成24年度からの繰越事業

(単位：千円)

事業名	繰越額
震災対策農業水利施設整備事業	10,000
地域農業水利施設ストックマネジメント事業	23,200
林道開設事業	73,163
橋梁維持事業	43,366
公営住宅老朽化対策事業	13,000
旧片貝小学校記念碑設置事業	2,363
合計	165,092

赤字体質変わらず
埴町振興公社
売り上げは、目標を上回ったが仕入額の増加や経費の増加にともない営業利益は赤字であった。一方、原発事故による東京電力からの損失補償により営業外利益が確保されたため、純利益は411万円の黒字となった。

法人の経営状況について

※繰越明許費とは
工事関係などで支出を翌年度に繰り越したときに、あらかじめ予算で定めて繰り越して経費の支出ができるようにするもの

町長は、町が出資している法人について、毎年経営状況を説明する資料を作成し、議会に報告しなければならぬ。本町でこれに該当するのは、埴町振興公社と白河地方土地開発公社である。

利益（損失）

(単位：千円)

部 門	24年度	23年度	増 減
営業利益	▲17,992	▲30,302	12,310
経常利益	6,873	54,552	▲47,679
当期純利益	4,110	53,415	▲49,305
繰越損失（赤字）	75,807	79,918	▲4,111



赤字体質の埴町振興公社

質疑

藤田（二）原発事故による風評被害について東京電力の補償金は請求額のどのくらい入ったのか。
答弁 額により違うが、請求額の100%に近い。

白河地方土地開発公社

東西白河の市町村が出資し、公有地等の取得、管理処分等を行う。埴町では、道の駅整備の土地取得の残額1775万1728円が長期借入金として計上されている。

第5回臨時会 旧高城小学校跡地財産の処分

平成25年5月14日、第5回臨時会が開催され、旧高城小学校跡地の売却処分が決定した。

契約先 株式会社オーゼキ
（東京都葛飾区）
販売額 4千万円
条件 校舎・物置・更衣室等を取り壊す。



売却された旧高城小学校

5議員が町の考えを問う

一般質問は、6月12日に行われ、47人の方に傍聴されました。

木質バイオマス発電事業の賠償責任の明文化を 小貫初枝議員

憲法や法律に定められている

町長



れば、損害に
対応する責任が
ある。発電所の
運営により問題
が生じれば、企
業にその責任が
ある。
町の対応に問
題があり、損害
が生ずれば町で
対応する責任
がある。「町が
職務により損
害を加えたとき

法律でその損
害を賠償する
責任が町にあ
るといふ規定
があるので、
これが最大のお
墨付きと考え
る。
憲法や法律で
、「違法に損害
を与えた時
には、賠償の
責任に任ずる
」と定められて
いるので国も
県も町もそれ
ぞれに責任を
負うことはで
きない。

3月議会で、
バイオマス
発電を実施し、
被害が起きた
場合の責任は、
国・県・町・
事業主にある
と答弁があつ
た。確かに
なものとす
るために、そ
れぞれにいわ
ゆるお墨付
き(公的文書)
が必要にな
ると考えるが
どうか。
答弁
損害賠償する
ようなこと
とは出てこ
ない事業で
ある。会津や
白河でもス
ムーズに運
営されている
。仮に因果関
係が認めら



管理の行き届いた山林

- 鈴木 茂議員
 - (1) 野菜工場の誘致
 - (2) IP告知システムの有効活用
 - (3) 町内各地の地域おこしとその支援
- 鈴木安次議員
 - (1) 埴町木質バイオマス発電事業による地域活性化
 - (2) 東日本大震災時の対応とその後の取り組み
- 鈴木幸江議員
 - (1) 放射線を正しく理解し、正しい対応と今後の町振興策
 - (2) 地域力の活用
- 藤田高志議員
 - (1) 行政サービスの向上
 - (2) 学校給食の現状
- 小貫初枝議員
 - (1) 木質バイオマス発電事業の賠償

一般質問とは議員が町の行財政全般について、町に疑問点を質問し、考えを求めるものです。

鈴木 茂議員

町長

野菜工場の誘致を進めてはどうか

前向きに努力したい



質問
クリーンなイメージの室内野菜工場は、風評被害の影響を受けないと思うが誘致する考えは。
答弁
来る企業があれば、前向きに検討する。

質問
板庭地内の旧焼酎工場の跡地に誘致してはどうか。
答弁
町の水源が近くにあるが、それに支障がないかどうか。また、どんな形の工場がよいか研究しながら誘致に努力していきたい。



IP告知システムを操作する職員

IP電話の有効活用を検討課題である

質問
IP告知システムで議会中継ができないか。
答弁
長時間の配信が難しい。対応するためには、多額の費用がかかる。今後の検討課題である。



地域づくりを学ぶ受講生

地域おこしに助成金を
視野の広い助成を検討

質問
地域おこしは、その地域を活性化する。町内各地で始まれば、町が元気になる。町で資金面を助成してほしいが、どう考えるか。
答弁
産品開発事業で限度額50万円の補助制度があり、活用していただいている。今後も町として積極的な取り組みをしていく。

質問
産品開発だけでなく、イベントや事業に枠を広げ、地域おこしをしてはどうか。
答弁
法政大学から講師を招き受講生14人で地域づくりについて学んでいる。産品づくりも含め、引き続き助成していく。ものづくり等視野の広い助成を検討している。

木質バイオマス発電事業 による地域活性化は

鈴木安次議員

関連産業、商店街への 波及効果が期待できる

町長



質問
町民や専門知識を持った第三者が、立ち入り検査できるような協定を結ぶべきではないか。

答弁
安全と安心を担保できるように、第三者機関を入れた検査ができるように考えている。

答弁
区長、民生児童委員見回り訪問員と連絡を取りながら、できることからやる。

**非常食の備蓄を
検討する**

質問
埴町は、山間部が多い。震災に備え、地域に分散した非常食の備蓄が必要ではないか。

答弁
地域住民を守るためにある程度の備蓄は検討しなければならない。

**「がんばろうビジョン」
の進捗状況は**

質問
「がんばろうはなわビジョン」四つの柱の進捗様々に対応している

**要援護者への周知方法は
各機関と連絡を取る**

質問
災害時の要援護者支援体制、周知方法は。

**燃料を八溝山系から産
出される木材に限定でき
ないか。**

質問
燃料関係、商店街への波及効果など、相当な経済効果が考えられる。

答弁
山林作業や運送関係・燃料関係、商店街への波及効果など、相当な経済効果が考えられる。

質問
木質バイオマス発電事業で、どのような産業創出や地域活性化が考えられるのか。

答弁
契約の中でマニュアルを作り監視する。燃料は食品基準と同じ100ベクレル以下のチップなので、汚染物質ではない。

質問
埴工業高校新卒者の雇用も強力に働きかけを。優先的に働きかける。

質問
児童生徒の保護者については、継続して取り組んでいく。



Jアラートと連動しているIP告知電話

被害対策として、新たにアンテナショップを増設するほか、山林整備や風評被害の少ないダリアの生産を進めたい。
防災拠点整備として、二カ年計画で公共施設に太陽光発電施設を設置し、情報手段確保として、JアラートとIP告知電話を連動していく。

鈴木幸江議員

町長

放射線不安払拭と 今後の町振興策を問う

丁寧に説明し、 企業誘致を進めていく



質問
木質バイオマス発電事業誘致計画を発端に改めて健康不安が鮮明な状況である。不安払拭のため再度、講演会を開催したにもかかわらず参加者が少なかった。講演型より一人ひとりに向き合う相談型・学習型あるいは訪問型が効果的との専門家の助言もある。成人向け放射線教育が必要と考える。どう対応していくか。

答弁
講演会には、小さな子どもも保護者の参加をいただき良かったと考えている。保健師による相談について現段階では難しい。放射線専門家による方法があれば検討したい。



不安払拭のため講演会が行なわれた

**子ども教室を全小学校
で実施すべきでは**

質問
児童生徒の保護者について、継続して取り組んでいく。

地域の大人と子どもた

ちの交流による育成支援事業「放課後子ども教室」を全小学校で実施すべきではないか。

答弁
平成16年度より埴小学校児童を対象に、週1回地域サポーターの協力を得、子どもたちの居場所づくりとして実施している。他の小学校においても、場所・地域サポーター等の条件が整えば開設を検討したい。



子ども教室「父の日のカードづくり」

**家庭教育支援・地域力を
どう活かしていくのか**

質問
子どもや親に寄り添う支援と地域人材活用、どう進めていく考えか。

答弁
家庭教育支援については、就学前・幼・小・中学校をつないでいけるような支援のあり方を検討していきたい。地域人材活用については、学校支援ボランティア組織を活用し、学校の要望に応じて活動していく。

町職員の資質向上

のための取り組みは

藤田高志議員

住民に信頼される職員を育てていく

町長



は、年間を通して、町独自に部門ごとに課題研修等を実施し、住民に信頼される職員を目指し研修をしている。

SNS等の活用は検討する

町のイメージアップのためSNS等を活用したPRや情報発信が必要と考える。これには情報を取り扱う職員の育成が必要と考えるがどうか。

答弁

若手職員には、ソーシャルメディアに慣れ親しみ、利用している者が多くなっている。これでの情報発信することができるなら、プロジェクトチームを作って、検討したい。

イー」を通じた「友達の輪」のネットワーク型組織。mixi、Facebookなどを用いる。

試食会、アンケート調査を行い献立の改善をしている。

学校給食はどのような考えで作られているのか

質問

学校給食はどのような考えに基づいて作られ、評価はどのように行われているか。

答弁

献立は摂取量・栄養バランス・国の摂取基準など、望ましい栄養量を算出して献立を作って提供している。

評価は、学校給食センター運営協議会で学校給食の目的や、運営について検証している。また、



子どもたちの喜ぶ笑顔を思い浮かべながら

質問

職員の資質向上のためどのような研修等を行っているか。特に若手職員を育成するための取り組みは。

答弁

基本は、福島市にある自治研修センターで役職段階ごとに研修する。新規採用職員研修・中堅職員研修・管理職研修等段階ごとに行なっている。さらに全国研修・派遣研修・課題研修等々行っている。若手職員について



町民に信頼される職員を目指して

道の駅はなわの観光案内所復活を

質問

道の駅はなわの観光案内所は、なくてはならないと思うが復活できないか。

答弁

いろいろな形でPRすることが必要。

(平成24年9月定例会)

議会だよりモニターさんの声

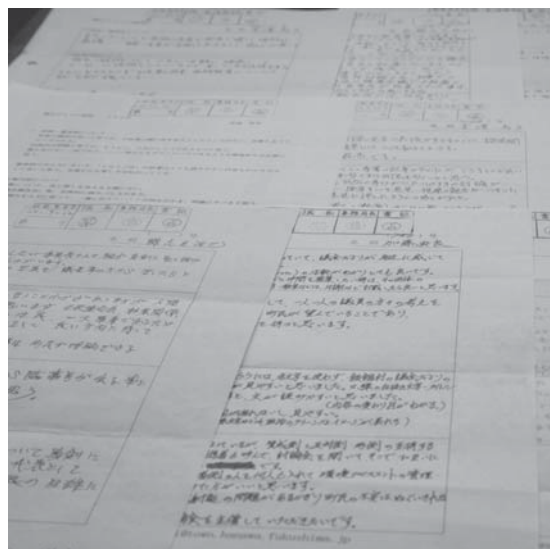
議会広報活動の充実及び皆さんに親しまれる議会だよりを目指してモニター制度が始まりました。

モニターの皆さんから議会だより発行ごとに、意見をいただいています。その一部を紹介します。

- ・表紙の写真が暗い。
- ・表紙の子どもの表情が豊か。
- ・文字が小さい。
- ・赤字が目が疲れる。
- ・赤字は目が疲れる。
- ・議員ひとり一人の考えを載せてほしい。
- ・町の問題をわかりやすく、伝える紙面にしてほしい。
- ・などの要望が寄せられました。

広報常任委員会より

モニターさんの意見を参考に、今回は緑を基調にしました。



モニターからは様々な意見が

議会議員と意見交換しませんか

議会議員と意見交換会をする団体を募集しています。町民または町内に勤務しているおおむね10人以上のグループが対象で、ご希望の会場に伺います。お申し込みは、議会事務局(Tel 43-2150)をお願いします。

追跡レポート

～ 一般質問のその後 ～

定例会で行われた一般質問の中からピックアップしその後の動き、現在の状況を調査しました。

道の駅に観光案内所設置される

埴町観光協会の観光案内所が6月7日に道の駅に設置された。今後は、道の駅と連携して、埴町の観光PRの拠点としていく。

○観光案内所の主な業務

- ・宿泊施設や地元商店の案内
- ・観光情報の紹介
- ・地元特産品の紹介
- ・観光ホームページの作成

○案内時間 9:00～17:00

12月29日～1月4日を除く毎日案内しています。

○連絡先 電話 0247-43-3400

ファックス 0247-43-3535

メールアドレス kanko-hanawa@pony.ocn.ne.jp



お気軽にお立ち寄りください。

広報編集委員が、団体(サークルなど)を訪問して活動内容を皆さんにお知らせします。

団体の名称：ボランティアサークル「そよ風」
練習場所：埴町公民館 連絡先：埴町公民館 電話43-0320

みんな楽しく 手作り人形劇

「そよ風」は、平成13年ごろから活動している、人形劇とペープサート(紙人形劇)のボランティアサークルです。
 人形は、全て手作りで、基本の人形は5体あり、服装や髪型で変化をつけています。
 主要メンバーは5人と多くはありませんが、台本づくりから演出、人形の操作、声・ナレーション、裏方とみんなで相談しながら、協力し楽しく活動しています。
 準備から発表までは2カ月間かけ、みんなで練り上げています。6月は幼稚園や保育園に向き、歯みがきの紙人形劇を行いました。年齢や対象者に合わせ「桃太郎」「アンパンマン」「ドラえもん」とバージョンを替え、分かりやすく興味を持ちやすく伝えます。
 代表の石井英子さんは、「子どもたちや見て

下さる人たちを楽しませたい」とお話ししてくれました。
 メンバーが少なくても変な時もあるが、楽しんでもらえるよう考えて活動しているそうです。
 9月には、常豊幼稚園のお誕生会で人形劇が予定されています。

サークルが長く続いていく秘訣は、人形劇が好きで、見てくれる人の笑顔が見たくて、メンバーとの活動を楽しくしているからなのではないでしょうか。



園児たちは興味津々



「そよ風」による紙人形劇

編集後記

人口推計では、埴町は平成37年度には人口8000人を割り込んだ新推計値が出されています。このまま、何の対策も講じていないとこのような人口減少をたどってしまう事になりかねません。人口減少は出生数の低下と死亡数の増加がその主な原因です。
 議会では、人口減少に歯止めをかけるべく全議員で「問題の共有化」を図り、人口減少対策の政策課題研究に取り組みを開始しました。町の現状把握から始まり、調査研究を重ね議会として人口減少対策を考えて参ります。今後、議会だよりでお伝えします。
 吉田 克則

議会傍聴においでください

次回の定例会は、9月17日(予定)に開かれます。議場は役場庁舎の二階西側にあります。
 住所・氏名の記入等簡単な手続きで傍聴できます。ぜひお出かけください。

※議会会議録は、図書館・議会事務局、またはホームページでもご覧になれます。

広報常任委員会

委員長	鈴木 幸江
副委員長	吉田 克則
委員	小貫 初枝
委員	鈴木 安次

発行所 埴町議会議員 鈴木道男
 編集 議会広報常任委員会

〒963-5492 福島県東白川郡埴町大字埴字大町三丁目21
 TEL 0247-43-2150 FAX 0247-43-2116

URL <http://www.town.hanawa.fukushima.jp/>
 E-mail gikai@town.hanawa.fukushima.jp